

平成23年度 第1回太田市公共工事入札等監視委員会 委員コメント

川田 篤 氏

- ・ 入札の運用実績として、“くじ引き”による落札の件数が多い現状にある。業務委託について、最低制限価格の設定に工夫を加えたところ一定の成果を挙げたといえる。このように成果を確認できた工夫は、今後の制度の見直しの中に積極的に織り込んでいくことが望まれる。

中原 國隆 氏

- ・ 入札方式について、試行錯誤の部分は多々あるかと思いますが、毎年、丁寧に結果を検証され、改善に取り組まれていると感じました。最低制限価格の妥当性をどう判断するか、今後も課題として続くと思います。価格試算モデル（H20版）に準拠するに留まらず、施工コストの実態に踏み込んだ研究が必要と思います。

穂積 照雄 氏

- ・ 他市と比較して工事等の落札率が低い現状は、適正な競争原理が働いているものと思われる。しかしながら、“くじ引き”による落札決定が多く課題として残る。予定価格や最低制限価格の公表、非公表を含め、毎年、入札制度を見直ししているが、くじ引き落札の原因についても更なる検証を引き続きお願いしたい。

藤田 修司 氏

- ・ 入札契約の状況は、適正範囲にあると思います。抽選落札を減少するための策を講じていることも確認しました。今後も適正かつ平等で節約型の公共事業が遂行できるよう努力されたい。そうした行政の中で、市民の暮らしが豊かになり、太田市がさらに発展することを願います。